

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591500172		
法人名	サンキウエルビイ 株式会社		
事業所名	サンキウエルビイ グループホーム 新南陽		
所在地	周南市政所2丁目7-20		
自己評価作成日	平成26年1月5日	評価結果市町受理日	平成27年 6月 29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
訪問調査日	平成27年1月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が入所しても地域との絆が切れないように、馴染みの山崎八幡宮の行事に参加したり、地域の老人会との交流を図っている。地域のボランティア(フラダンス・手品・歌・習字・押し花・話し相手・うどん作り・など)にも多数来所してもらって、楽しい時間作りをして、認知症の進行を遅らせる努力をしている。職員も季節の行事(盆踊・運動会・敬老会・お餅つきなど)計画して、生活に季節行事を計画し支援をしている。毎日の過ごし方として、午前中は周南シャッキリ体操・当会社が推薦しているシニアエクササイズや脳トレを行っており、午後にはレクを行っている。毎週2フロアで合同レクを行い、利用者同士の交流や、職員の融和を図っている。週に1度は近所の公園でグランドゴルフ・ペタンクを老人会の指導で楽しんでいる。買い物など便利な立地条件なので、お菓子屋に行き好みのお菓子を買っておやつにしたり、訪問パン屋ではパンバイキングとして自分でパンを選んで購入している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自治会に加入され、職員は3ヶ月毎に行われる公園の清掃活動に参加しておられます。利用者は地域の八幡宮の行事(正月、節分祭、春祭り、夏祭り、秋祭り、鉄輪神事など)や毎週行われる老人会のグランドゴルフ、ペタンクに参加されるなど地域の人と交流をされています。フラダンスや傾聴、話し相手、書道、小学生のブラスバンド、手品、うどんづくり、歌、演劇、押し花などのボランティアの来訪もたくさんある他、体験学習を受け入れられています。地域に向けた事業所主催の夏祭りはかき氷やたこ焼き、スイカ割り、盆踊りなどイベントを企画され、子供にヨーヨーを配るなど利用者が地域の人と交流を楽しめる支援に取り組んでおられます。年末は餅つき大会ををされ、お餅を地域に配られるなど、事業所は地域との絆を大切にされています。地域災害対策には地域協力委員9名を確保され、運営推進会議メンバー、住民(民生委員、福祉員など)と一緒に火災避難訓練をされるなど地域との協力体制を築いておられます。利用者一人ひとりの思いや意向、希望を大切にされ、住み慣れた島に魚釣りに行かれたり、されるなど、利用者に応じた介護計画を立てられ支援しておられます。調理担当職員を2名確保され、利用者の好みの献立やパンバイキング、季節行事に合わせた料理を提供されるなど食事を楽しむ支援をされています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	企業理念は「福祉事業を通じて地域社会に貢献します」であり、グループホームの理念は「私たちは、思いやり・笑顔・絆を忘れません。利用者様・ご家族の意向を大切にします。また地域社会に根付いていきます」としている。毎月の全体会議で唱和し介護に活かしている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示している。管理者と職員は毎月の全体会議で唱和し、理念を共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入をして、地域の清掃作業に参加している。回覧板を回覧している。火災避難訓練には、毎回近所の方の参加がある。地域の八幡宮の行事(正月・節分・夏祭り・秋祭り・鉄輪神事など)に利用者と一緒に参加している。老人会のグランドゴルフ・ペタンクなど指導してもらって毎週楽しみにしている。ボランティアではフラダンス・傾聴・話し相手・書道・小学生のブラスバンド・手品・うどん作り・歌の慰問・演劇・押し花など、毎月何らかの行事をしている。総合支援学校の生徒を職業体験の場として実習を受け入れている。行事として、近所のお菓子屋さんに利用者を連れて行き、好きなものを買っておやつに食べている。また、夏祭りには、近所の子どもさんにヨーヨーを配り。年末のお餅つきではお餅を配り地域との繋がりを大切にしている。	自治会に加入し、3ヶ月毎に行われる公園の清掃作業に職員が参加している。散歩時に回覧版を届けたり、お菓子屋で買い物をするなど挨拶を交わし、交流している。地域の八幡宮の行事(正月、節分祭、春祭り、夏祭り、秋祭り、鉄輪神事など)、に利用者と一緒に参加している。老人会のグランドゴルフやペタンクに毎週参加し、利用者は地域の人と交流している。ボランティア(フラダンス、傾聴、話し相手、書道、小学生のブラスバンド、手品、うどん作り、歌、演劇、押し花など)の来訪があり交流している他、職業体験を受け入れている。事業所行事の夏祭りは班にチラシを配布し、盆踊り、かき氷、たこ焼き、スイカ割りなどを行い、子供にはヨーヨーを配っている。年末には、利用者の家族から提供された杵と臼を用いて餅をつき、自治会の同じ班の家に配っているなど、地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	オレンジリングにちなんで建物がオレンジ色となっている。利用者さんを散歩などに連れ出して地域の方との挨拶を行い、地域の方と触れ合うようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全体会議で、スタッフに外部評価の意義を伝え、各フロアで1部ずつ配布し、各自が考えて記入をし、管理者が記入したものをまとめて再記入をした。施設の理念の検討もしたが、今年もこの理念で行うことに決定した。	管理者は、全体会議で職員に自己評価や外部評価を実施する意義を説明している。ユニット毎に自己評価するための書類を配布し、各職員が記入して管理者がまとめている。前回の外部評価を受けて、全職員で話し合い、サービスの質の確保や向上に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議では、行事の写真のスライドショーやビデオをを上映して、利用者さんの表情を見てもらい職員の取り組みを見もらっている。構成委員は、周南市役所・包括支援センター・近くのグループホームの施設長・相談員2名・民生委員・福祉委員・家族会・各フロアのリーダーと管理者である。	2ヶ月に1回開催し、事業所の現状や行事計画、事故などについて報告し、意見交換をしている。参加者から、他事業所の避難訓練の様子について、車椅子の種類によっては、事前に特徴を正しく理解していないと混乱することがあるという発言を受けて、事業所の車いすの仕様を確認しているなど、意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の監査室から、運営推進会議に参加がある。監査室とは、相談事があると、電話や出向いて回答を受けている。常日頃から顔なじみになるようにしている。地域包括支援センターには、CS会議に参加して情報をもらっている。また、運営推進会議にも参加してもらっているので良好な関係作りが出来る。	担当課とは運営推進会議時や電話、直接出向いて情報交換したり、相談して助言を得るなど協力関係を築いている。地域包括支援センターとは運営推進会議時やケアマネジャー会議で情報交換をし、家族の要望の協力を伝え、千羽鶴を折ってもらうなど協力を得たことがあるなど、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について毎年研修を行っている。オムツさわりの方も、抑制をしないで、問題が起こる前に対応するようにしている。玄関の施錠は遅出勤務者が帰る時(20時半)に施錠して早出勤務者(7時)が開放している。「ちょっと待って・ダメ」などの言葉を使わないようにお互いがチェックをしている。余分な安定剤・眠剤など使わないように主治医と連携をとっている。身体拘束廃止の基本方針が張ってある。	内部研修(現任研修)で身体拘束や弊害について研修を実施し、職員は学習して、理解している。スピーチロックについて気付いた時は管理者が注意したり、職員同士で注意し合うなど身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は日中開錠している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についても毎年研修を行っている。入浴時や更衣など皮膚の状態をチェックしている。言葉がけや介護時にも虐待が出ないようにお互いがチェックしている		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設では、今のところ権利容疑を進める家族はいないが、今後も知識として研修を行っていく		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	今年度は、新しく入所された方は居ないが、平成26年4月の消費税アップに伴った利用料金のアップ時には、各家族に説明してサインをもらった。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外来受付簿のところに、ご意見箱を用意して、意見を聞く手段の1つとしている。意見があったときには、回答をエレベーターの入り口にメッセージボードがあるので、返事を書いたものを張るようにしている。(受付にカレンダーが欲しい・ロータリーに車が止まってタクシーなどが困る)家族が来られた時にはお茶を出して、家族との交流を図り、意見などを聞くようにしている。	契約時に相談、苦情の受付体制や処理手続きについて、家族に説明している。事業所1階に意見箱を設置し、運営推進会議時や面会時、家族会(年4回)、行事参加時、電話などで家族から意見や要望を聞く機会を設けている。受付場所に時計やカレンダーがあるという意見で設置したり、年間行事予定表が欲しいなど意見があり、家族に配布しているなど、反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の各フロアー会議や全体会議のときに、改善点があれば意見を出し合って解決をするようにしている。必要物品の依頼があった時には、対応している。	管理者は月1回の全体会議で職員の意見や要望を聞く機会を設けている他、日常の業務の中で聞いている。職員より、収納庫や接待時のワゴン車の購入など意見があり、反映させている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正社員は、年に2回チャレンジ目標を作成し、考課を記入し、管理者評価・本社評価を行っている。サンクスカードの利用で、職員間の融和を図っている。全体会議で、出席者全員が全員に、褒める言葉をポストイットに書いて読あげた。褒めてもらった職員はとても喜んでいた。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人にはチューター制度を使って業務指導をしている。また、管理者は項目（認知症について・薬・病気・ヒヤリハット事例など）個々で研修を行っている。外部研修には積極的に参加し、報告書の提出をしている。毎月現任研修時に病気についての研修を行っている。	外部研修は職員に情報を伝え、段階に応じて参加の機会を提供している。認知症の理解とケア、脳活性化ゲームで認知症予防、家族・地域でできる防災対策、実践リーダー研修などに参加している。法人研修は内部研修の講師としての役割について研修をしている。内部研修は計画に沿って月1回、接遇、プライバシーについて、感染症及び食中毒、救急法、身体拘束、防災などについて実施している。新人研修は管理者がマンツウマンで指導している。資格取得については法人が模擬試験を作成し、管理者が解説しているなど、働きながら介護の技術や知識を身につけていくことを支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネ協会に加入・また西部地区GHの研修に参加している。CS会議の参加をして、地域の同業者との連携を図っている。また、地域で開催される研修に参加して交流を図っている。現任研修では外部講師の利用もしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを始める前には、本人に施設見学をしてもらい、安心して入所が出来るように援助をする。また、入所前のケアマネからも情報収集を行い、面談をして入所判定を行う。本人の趣味や意向を聞き、笑顔で接するようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学を必ず行ってもらっている。運営推進会議で利用した行事報告や献立など渡して、どのようなサービスをしているかを知ってもらい、安心して入所後の生活がイメージできるように援助をしている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所後は環境のへ変化に慣れる為に、なじみの所(病院・神社など)に連れて行くようにしている。また、話し相手が出来るようにテーブルの位置などを工夫している。元のケアマネには入所後の写真や本人を連れて行っている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援の立場から、利用者が出来る事(洗濯物干し・たたむ・おやつ・団子作りなど)は行ってもらう。1日の生活を職員と一緒に過ごす環境作りをしている。食事は利用者と一緒にテーブルにつき、会話をしながら同じものを食べている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会には、利用者の近況を報告をしている。部屋にコーヒーを出し、家族と利用者が気兼ねなく会話出来るようにしている。家族会では行事のビデオや写真のスライドショーをして、日常生活が分かるようにしている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのスーパー・喫茶店・神社・生活していた家などへドライブに行き、今までの生活を大事にしている。家族の協力で、旅行や外食・結婚式・法事など今まで通りできるように援助している。	知人、友人、親戚の人の来訪がある他、手紙や年賀状、電話の支援や馴染みのスーパーマーケットや喫茶店の利用、公園や神社、自宅付近へのドライブなど馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。家族の協力を得て墓参り、法事や結婚式への出席、外泊や旅行に出かけるなど支援している。以前通っていたカラオケボックスに出かけたり、以前住んでいた大津島へ釣りを兼ね利用者2名、職員でフェリーに乗って島に渡るなど支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士で会話が出来るように椅子の配置を考えている。ソファを利用しての転寝など居心地の良い環境作りをしている。レクでのお菓子作りなど利用同士が笑顔で手伝いが出来るようにしている。生活のメリハリを付けるように午前中は体操や脳トレを行い、午後は皆で楽しめるようにレクに提供を行っている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の利用者さんの家族にも、折を見て電話をかけ近況を聞いたり、話し相手になったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や、生活暦から希望・意向をつかみ、個々に応じたレクの提供を行っている。(釣り・カラオケ・編み物・喫茶店・自宅に帰るなど)家族とも話し合いながら個別レクの提供をしている。	入居時のアセスメントのシート(本人や家族の意向や好み、生活歴)を活用している他、日々のケアの中で一人ひとりの思いや暮らし方の意向の把握に努めている。入浴時や夜間など利用者と職員が1対1で関わりを持つ時間帯に本人の思いを聞き取るようにしている。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	どのように生活したいかがいえない方も、家族からの情報と生活暦などから推測して援助に当たっている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録・毎日のバイタルチェック・月に1回のモニタリング・3ヶ月に1回のカンファレンス・通院介助などで利用者の把握を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の利用者との会話から・家族の面会時には日々の状態の報告をする時の会話から汲み取っている。	利用者を担当する職員が月1回モニタリングを行い、3ヶ月に1回のカンファレンス、ユニット会議（フロアー会議）で本人や家族の要望、主治医の意見を参考に話し合い、介護計画を作成している。見直しは1年から2年で、状況に変化が生じた時はその都度見直しをしている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の業務日誌に記入している。詳細事項はサービス提供記録に記載をしている。必要があれば緊急カンファを開催して情報の共有をしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	朝起きるのが苦手でもう少し寝させてくださいと言われる方には、起きる言われるまで寝てもらっている。釣りの好きな方、花の好きな方・園芸の好きな方・調理に好きな方それぞれ個々に応じてサービスを展開している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のお菓子屋さん・地域の老人会の方たち・公園・神社・花屋さんなど馴染みを大切にし、地域の溶け込むように支援をしている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携医への通院介助と情報の提供・往診に来てくださる4名の主治医の先生の診察介助を行っている。又主治医以外でも家族の通院介助ができない時には通院介助を行っている。家族の受診時には看護師により情報提供を紙面にして主治医と良い関係作りをしている。	本人や家族の希望を大切にし、入居前からのかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療が受けられるように支援している。利用者に応じて週1回、月2回、1ヶ月1回の往診がある他、家族の協力を得て受診の支援をしている。受診後は家族に電話等で報告し、共有を図っている。他科受診の支援も行っている。かかりつけ医に利用者の日常の様子をビデオに撮影し、情報を伝えることもある。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が2名居る。利用者の異常に職員が気づいた時には、夜間でも報告あり指示をしている。必要と考えた時・緊急時には夜間でも休日とわず出勤して、職員の安心感と利用者の安全と家族の信頼を得るようにしている。必要があれば、家族に報告・受診に繋げている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には看護師から病院の連携室に介護サマリーを持参し、看護師が付き添いをしている。入院中も面会に行っている。退院時には事前に訪問して情報収集をして、スタッフに情報を提供してスムーズに退院後の介護が出来るようにしている。退院の時は迎えに行き病院の看護師・先生・連携室に挨拶をしている。退院後の受診時には連携室に利用者を連れて挨拶に行っている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院治療が必要になった時・食事をしなくなり今後の治療方針を決めなければならない時など、家族と主治医・看護師・介護職との話し合いをしている。此处で看取ってもらえて良かったと言って貰えるように支援している。6月に1名の看取りを行った。家族・主治医・職員の連携で家族の納得のいく看取が出来た。	入居時に「グループホーム新南陽での重度化した場合における対応に係る指針」に基づいて本人及び家族に説明し、同意を得ている。実際に重度化した場合は家族と主治医、職員で話し合い、事業所のできることを説明し、希望に応じて「看取り介護計画書」を作成し、同意を得て、方針を共有して支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ヒヤリハットが生じた時には、全体会議で検討を行い原因究明・改善措置を検討(職場内のルール化・マニュアル化・個人のOJT)し、再発が起こらないようにしている。緊急時の対応は消防士による研修を行った。また看護師による日々の中で指導をしている。救急車や入院の時にすぐに持参できるようにフファイルに閉じている。	ヒヤリハット報告書はユニット毎に記録し、その日の職員で話し合い、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。事故報告書は事業所で1冊に、発生原因や結果、再発防止について記録し、全職員で共有している。「緊急時対応と救急蘇生について」管理者とユニット責任者は研修会に参加し、職員に復命している。家族が食事介助中に起きたのど詰まりの応急手当を成功させた事例もあるが全職員が応急手当や初期対応の実践力が身につけているとは言えない。	・全職員が実践力を身につけるための初期対応や応急手当の定期的訓練の継続

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年居2回、消防署の立会いの下で火災避難訓練を行っている。地域の方の参加もある。夜間を想定した訓練もおこなっている。地域協力委員に近所の方になってもらい、年に2回避難訓練のときに、GHの見取り図や入所者の身体状況を配布している。防災マップを用いて研修も行っている。	消防署の協力を得て年2回、昼夜を想定した火災避難訓練を実施している。地域協力委員(地域の人9名)、運営推進会議メンバー(民生委員、福祉員)などの参加者にグループホーム内の見取り図や利用者の身体状況について情報を提供し、協力を得て実施しているなど、地域との協力体制を築いている。飲料水や食料の備蓄もしている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会社でプライバシーマークを取得している。1年に1回プライバシーについて研修をしている。管理者が新人には入社した時にプライバシーについて講義をしている。利用者の部屋は個室になって鍵をかける事もでき、家族がこられた時にはプライバシーを妨げないようにしている。トイレ誘導や入浴時の介助中も、ドアの開閉・言葉かけに注意をしている。	内部研修(現任研修)で職員は一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保について学び、理解している。法人はプライバシーマークを取得している。誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。個人記録の保管に注意し、個人情報保護に努めている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクへの参加も強制にならないように、自室で過ごしたいという方はそのようにしている。また、レクも画一的にならないように工夫をしている。自己決定が出来るように支援をしている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者がトイレに行きた言われたら手を止めて介助をしている。屋外に出たいと言われた時には、個別に対応してその方の行きたいところに付き添って出かけている。朝も起きたい時に起きてもらって、暖かい朝食を提供している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧をしたい方はお化粧をしてもらっている。女性はマニキュアをして女性らしさを持ってもらっている。女性は誕生日にはお化粧をしてもらって写真を撮っている。寝るときはパジャマ・起きてからは普段服に着替えをして貰っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士による献立で調理師が料理している。季節の食事(正月は御節・お餅・七草粥・赤飯・誕生日にはお刺身や巻き寿司・クリスマス)を提供をしている。月に1回はパンバイキングがありパンを選んでもらっている。敬老会では外食をした。ここに応じた食事の形態で提供している。配膳下善ができる方にはしてもらっている。	事業所で調理担当職員(2名)を確保し、法人の栄養士の献立を活用し、地元の食材の購入や家族や地域からの差し入れの野菜など旬な食材を使って、三食とも事業所で調理している。利用者は職員と一緒に野菜の下ごしらえやホットプレートを使って焼きそばやお好み焼きなど調理している。月1回パンバイキングを楽しんでいる。季節の行事食(おせち、お餅、七草粥、赤飯、手巻きずし、ソーメン流し、クリスマス料理)やおやつづくり(みたらし団子、月見団子、ホットケーキ)、ウッドデッキでのカフェなど、食事を楽しむことのできる支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の水分摂取量をチェックしている。お茶を飲まない方は代替でココアやカルピスを提供している。午前午後と水分補給(好みを聞く)の時間を作っている。また、入浴後には水分補給をしてもらっている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には口腔ケアを行っている。寝る前には、入れ歯洗浄剤を使っている。食前には嚥下体操を取り入れている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	時間を見てトイレ誘導を行っている。入院中はオムツ対応だった方も、布パンツになりトイレでの排泄が出来るようになった。また、トイレでの排泄が基本と思っているので、立位保持が出来る方で尿意がない方も時間を見て便器に座ってもらっている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、言葉かけやさりげない誘導でトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排泄の申し送りをして管理をしている。医師と相談して適切な緩下剤を処方してもらっている。ない方には、プルーンを食べてもらったり、朝起きた時に冷たい牛乳を飲んでもらって調節をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	ゆずが取れる時はゆず風呂にし、また入浴剤を入れたりしてにしたり、お湯に工夫をしている。お風呂が好きな方には毎日入ってもらっている。入浴をしない時には、足浴・部分洗浄をしている。	入浴は14時30分から17時頃まで一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように支援している。利用者の状態に合わせて特浴入浴、足浴、シャワー浴、清拭等の対応をしている。入浴をしたくない利用者には、言葉かけの工夫をしたり、職員が交替したり、入浴剤を入れるなどして無理強いせず一人ひとりに応じた支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間も生活習慣で違っているので、早く自室に入る方もいれば、10時過ぎまで起きておられる方も居る。夜間起きてこられる方には暖かい牛乳を飲んでもらったり、ソファで休みたいという方はそのまま、朝まで過ごしてもらっている。午睡をしたという方は自室に入ってもらえる。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師2名が服薬管理をしている。看護師が仕分けをしたものを介護職員が2名で確認をして、手渡し・口の中に薬を入れる。など個々に応じて配薬をしている。薬についても研修を行っている。利用者の薬に一覧表があるので、分からない時には調べたり看護師に聞いたりしている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	運動会では2階対3階で行い活躍の場が出来た。グランドゴルフやペタンクなど点数を付けて競って楽しんでいる。縫い物をしていた方には雑巾を縫ってもらったり、お茶の先生だった方にはお茶を立ててもらったり、生け花をしていた方には剣山でお花を生けてもらっている。	事業所内ユニット対抗運動会、近隣の公園でのグランドゴルフやペタンク、盆踊り、テレビ体操、リハビリ体操、周南シャッキリ体操、ケアビックス体操、口腔体操、魚釣り、ぬり絵、貼り絵、ちぎり絵で季節の壁飾りづくり、習字、読書、縫物、生け花、押し花づくり、年賀状、新年の思いを扇に書く、野菜づくり、水やり、収穫、野菜の下ごしらえ、テーブル拭き、おやつづくり、テレビ視聴、家族からの要望で千羽鶴折りなど、一人ひとりの趣味やできることを活かした場面づくりをして、楽しみごとや気分転換などの支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日にはドライブ・散歩に行き、季節の風景・花をめでている。利用者の行きたいところを聞き連れて行っている。利用者・家族・職員で、馴染みの店で外食も楽しんでいる。	散歩や買い物、週1回のグランドゴルフやペタUNK、季節の花見(梅、桜、チューリップ、つつじ、紫陽花、バラ、紅葉)、初詣、温泉、足湯、魚釣り、動物園などドライブに出かけている。家族の協力を得て、外食、墓参り、法事や結婚式に出席、外泊、旅行など戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	大金は施設には持ってこられないようにしている。数千円は持っている方には受診費用や薬代などを支払ってもらっている。パンバイキングの時には個々で支払いをして貰っている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はかけたい時に施設からしてもらっている。毎日家族から携帯に電話がある方には充電が出来ているように支援している。年賀状や暑中見舞い・行事の案内など利用者から家族にはがきを出してもらっている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	認知症になると季節が分からなくなるので、フロアーの壁には毎月職員が思考して季節に合ったものを製作している。その時には利用者にも参加してもらっている。厨房がフロアーにあるので、調理をする時の臭いが食欲をそそっている。居室の窓もカーテンを開けて青空が見えるようにしたりしている。	共用の空間は明るくホールや廊下は広々としている。大型テレビやCDプレーヤーを置いて、場面に合わせて利用者が楽しめるように使い分けしている。ゆったり座れる椅子やソファを配置し、畳の間には炬燵があり、思い思いに過ごせるような居場所づくりをしている。季節の花を生け、壁面には利用者がつくった季節に合わせた作品を飾り、季節感を取り入れ、生活環境に配慮し、居心地良く過ごせるように工夫している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フローには六画テーブルが2個あり、気の合った利用者さんが隣り合って座れるように図っている。またソファでうたた寝をされる方も居る。また、フローには畳のスペースがあり、冬はコタツでも過ごせるようにしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には今まで使っていた、布団や家具を持ち込んでもらっている。家族の写真を飾ったり、施設での写真やレクで作成した物を飾ってもらっている。家族と協力して部屋作りをしている。	テレビや本棚、椅子、衣装ケース、小説、雑誌、鏡台など馴染みの物や好みの物を持ち込み、家族写真や自作品を飾って、本人が居心地良く過ごせるような居室づくりの工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々ができる事・出来るけれどしていない事・出来ない事を把握して、利用者の持っている力を大事にしている。ベッドの介助バーが必要な方・サイドレールで大丈夫な方に対応している。洗濯物を干したりたたんだり・家壇の花に水遣りや苗を植えたり、日常の生活の中で出来る事はしてもらるように支援している。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 サンキ・ウエルビィグループホーム新南陽

作成日： 平成 27 年 6 月 16 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	1	当施設に勤務したのが初めてと、経験の浅い職員が多数いる。事故に遭遇する機会がない為に、事故発生時の対応に自信がないものが多い。	現任職員での事故発生時の対応の研修を行う	①平成27年8月には、消防署の職員による事故の対応を研修予定 ②新人職員には、看護師2名による、転倒事故などのケースについて、対応の仕方など個別に研修を行う	1年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。